

広報

なんせい

第2号

発行 南西糖業株式会社 編集 総務部

〒 891-7621

鹿児島県大島郡天城町兼久高鈎 2337

Tel 0997(85)3125 Fax 0997(85)3129

社長あいさつ



皆さん始めまして。私は、六月十四日に開催された南西糖業㈱の臨時株主総会において代表取締役社長を拝命した近藤征男です。先の大戦の終戦一年前、昭和十九年八月生まれです。まだ、私が小学生の頃のことですが、いたずらをして両親を困らせる度に、母親から何度も聞く聞かされた話があります。

私の両親は新潟県長岡市の出身ですが、私が生まれた当時、東京都大田区蒲田に住んでいました。親父は近くの軍需工場に勤務していたそうですね。私が生まれて間もなく、連合軍による本土空襲が始まりました。母親は空襲警報のサirenが鳴るたびに、私をおぶつて防空壕に入つたり出たりの毎日だったそうです。そ

り、母乳が全く出なくなりました。当時は、粉ミルクなど手に入らないため、やむなく、ご飯を炊いた時の上澄み、いわゆる重湯で私を育てたそうです。最初、重湯をそのまま私に与えると、ほとんど飲まなかつたということでした。ところが、重湯に少し砂糖を入れ、やや甘くすると喜んで飲んだそうです。しかし、當時は砂糖もなかなか手に入れるのが難しかつたそうです。しかし、ある時、塩で味付けした重湯を私に与えたところ、スプーンを舌で押し出し、嫌がつて飲まなかつたということでした。

母親は私を育てるのに、そして砂糖を手に入れるのに大変に苦労したということでした。乳幼児の頃、砂糖のお世話をなつた私は、昭和四十三年、塩水港精糖㈱に入社しました。その後、現在まで三十八年間、多大な砂糖の恩恵に浴してまいりました。砂糖のおかげで禄を食み、家族を養つてくることが出来ました。

ここで、わが社に目を向けますと、昭和四十一年の創業

り、母乳が全く出なくなりました。

当時は、粉ミルクなど手に入らないため、やむなく、ご飯を炊いた時の上澄み、いわゆる重湯で私を育てたそうです。最初、重湯をそのまま私に与えると、ほとんど飲まなかつたということでした。ところが、重湯に少し砂糖を入れ、やや甘くすると喜んで飲んだそうです。しかし、ある時、塩で味付けした重湯を私に与えたところ、スプーンを舌で押し出し、嫌がつて飲まなかつたということでした。

この間の歴史に鑑み、私は、この社の社長としての重責に改めて感じ入る次第です。中でも、今期の、収穫面積は三千四百十五haで過去最低でした。原料処理量は、十八万六千五百二十五tで四番目に少ない量でした。このところ、四年連続で二十万tを割るという厳しい状況となっています。

平成十九年度からは新しい砂糖制度、新しい農業政策がスタートします。新制度の下では、小規模な農家の皆様は、できるだけ組織化をしていたり、お互いの協力の下に、労力、機械設備を分担しながら省力化を進め、生産コストの削減が図れるようにしていくことになります。また新しくさとうきび生産に加わる人に対しても、十分な支援を送り大規模なさとうきび生産農家としての自立の手助けをするものです。

農家の皆様には意欲を持つてさとうきび生産をしていただけるよう考へられた政策です。

また、経営安定対策の設定方法や、キビ代金を受け取る方法は変わつくるものの、農家の皆様の手取り額は今までと変わらない見通しと伺っています。ご安心いただきたいと思います。

このように、情勢がめまぐるしく変化し、新しい農業政策が発足する中で、この島の活気ある将来を見据え、私たちの島がいかにあるべきかを、さとうきび、園芸、畜産となる中で、それぞれの作物が、どの程度の割合で植えつけられたらいいのか、そのマスタートップランを行政に示していただき、当事者である農家の皆様、J A、それに私ども製糖企業も加わり、徳之島の農業が永続できる形を作り上げていかなければなりません。この島の歴史と共に歩んだ砂糖に対する皆様の思いと私のそれとは同じです。これから二、三年が大事です。

私も就任したばかりではあります。が、これから、この徳之島のために、誠心誠意、努力していく所存であります。早速、夏植植付けの時期に入ります。目標植付け面積達成に向かって一緒に汗を流しましよう。

平成十七／十八年期製糖の実績について

実績について

長い梅雨も明け、夏本番を迎えるとしています。農家の皆さんも暑い中さとうきびの管理作業などお疲れさまです。さて、十七／十八年製糖期実績についてご報告します。生産量は、三町合計で一八六、一二五ト、史上最低だつた昨年より一万四千ト増えました。しかし、四期連続の二十万ト割れとなつていています。二工場合計で一日当たり二、二〇〇トンの圧搾能力があり、安定操業のためには最低限二十二万ト以上のきびがほしい状況です。これを達成するために、農家の皆さんには面積拡大と单収アップをお願いします。



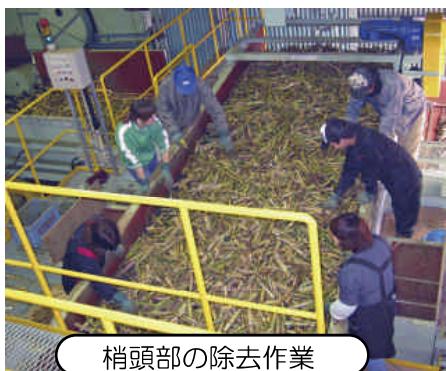
品質面では、買入糖度（きびの糖度）が、三町平均で一四・二六%と昨年よりはよかつたものの例年より低い品質となりました。原因としては、生育期の旱魃、製糖初期の悪天候などが影響したとみています。工場での砂糖の出来る割合を歩留といいますが、一二・六八%となり、例年が一二・五%程度ですので、やや出来が良かつたようです。この設備はきびが落下する時に風の力で枯葉などを飛ばし選別するもので、二回この操作を行い、次いで梢頭部を人力により除去し、手刈りきびと一緒に圧搾機で搾られま



伊仙工場全景ときび畠

伊仙工場 デトラッシャーの運転状況

今製糖期は、新規更新したデトラッシャーが伊仙工場で運転され、ハーベスターの時間二〇〇トンから五〇〇トンへと上がりました。この設備はきびが落下する時に風の力で枯葉などを飛ばし選別するもので、二回この操作を行い、次いで梢頭部を人力により除去し、手刈りきびと一緒に圧搾機で搾られま



梢頭部の除去作業

す。今製糖期は昨年より、枯葉などの除去率は大幅に上がっています。設備

の特徴としては、土砂の除去ができることと、集塵装置を付け環境面に気配ったものになつていています。工場では、この設備以外にも砂糖をつくるための設備がたくさんあります。休糖期の今

設備以外にも砂糖をつくるための設備がたくさんあります。休糖期の今設備以外にも砂糖をつくるための設備がたくさんあります。休糖期の今

- ① 土づくり・圃場準備 (有機物の利用)
- ② 優良苗 (奨励品種「無病苗・メリクローン苗」の植付)
- ③ 基肥の投入と病害虫対策
- ④ 雜草対策 (除草剤散布「土壤・茎葉」)
- ⑤ 施肥・中耕・培土作業

单収を上げるために、これまでのやり方を見つめなおす自分に合つたレベルで努力し、各作業において、適期の「植付や管理」作業に努めましょう。

栽培技術の基本を紹介

JA さとうきび 部会へ加入 することで、 JA さとうき

これまでの最低生産者価格にかわって、市場動向を反映した取引価格と一定の要件を満たす農家・団体への直接支払い制度へ転換されます。

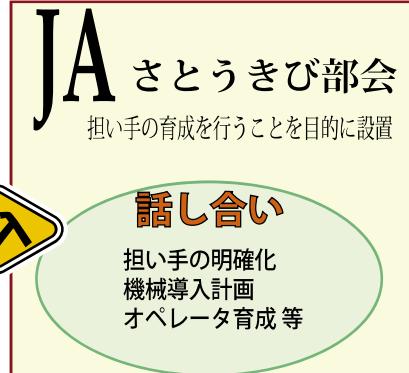
新制度においては、これまでの最低生産者価格にかわって、市場動向を反映した取引価格と一定の要件を満たす農家・団体への直接支払い制度へ転換されます。

さとうきび政策の見直しについて 全農家が支援 を受けること ができます。



徳之島のキビ生産農家の大多数が表一の(1)～(4)に属しますが、これに該当しない農家(5)も含めてJAさとうきび部会(七月頃までにJA地区単位で設置予定)に加入することで全農家が支援対象となります。部会においては、担い手の育成等に向けた取り組みの実施が必要です。

(表1)さとうきび経営安定対策の対象要件	
政策支援の対象者	備考
(1)認定農業者、特定農業団体等	面積要件なし
(2)一定の作業規模*を有する者 *(経営面積+収穫受託面積)	(ア)1ha以上の農家 (イ)4.5ha以上の組織
(3)一定の作業規模組織に参加	共同利用組織への作業集積
(4)基幹作業*を委託している者 *(耕起・整地、株出管理、植付、収穫)	(1)(2)や受託組織等へ面積の1/3を作業委託している者
(5)上記(1)～(4)のいずれにも該当しない者	



19年度以降の生産農家の収入は、現在の手取り水準が確保されます。

平成 18 年産の
価格構成



平成 19 年産以降の
価格構成



⇒ 国から直接支払い
⇒ 工場から支払い

※取引価格・政策支援額は、現時点での試算値で、キビ生産費や砂糖の販売額に基づいて近々決定されます。

手取り額 20,470 円

手取り額 (20,473 円)
= 生産コスト (国が保障)

収穫面積二、七〇〇ヘク 第一步

六／一日付の収穫面積の報告がありました。昨年の収穫面積の三、四一五ヘクより一六七ヘク増の三、五八二ヘクとなりました(昨年比、徳之島町一一〇%、天城町一〇四%、伊仙町九九%)

今製糖期は、二月と三月に「春植推進と早期株出管理推進」を二回に分けて実施しました。

その効果もあり株出面積は、昨年より一三九ヘク増加し、昨年比の一〇七%、二〇九五ヘクでした。(昨年比、徳之島町一〇八%、天城町一一%、伊仙町一〇一%)



株出管理機の作業風景

H.V.営農集団やJ.A.テクノなどの営農集団が、早期株出管理への積極的な取り組みもありました。

株出は必要経費や労力も少なく早期管理作業による単収アップも見込めます。欠株の補植や株揃機、株出管理機などの普及で増産プロジェクトにも掲げてあります「株出面積」の2割増に向けて弾みがつきました。

春植面積は、各町糖業部会を中心で目標面積を設定し、種苗の助成や採苗応援など実施しましたが、株出面積の伸びや終盤の気象条件にも左右され、昨年比の九七%、七四七ヘクでした。(昨年比、徳之島町一〇六%、天城町九一%、伊仙町一〇一%)

夏植面積は、徳之島町の大幅な伸びもあり、昨年比の一〇八%、七四〇ヘクでした(昨年比、徳之島町一二二一%、天城町九一%、伊仙町一〇一%)。

全体の収穫面積は昨年と比べると増えていますが、徳和瀬工場への「デトラッシャー設備導入条件の三、七〇〇ヘク」には届きませんでした。

り、収穫後の株出管理作業が進みました。

株出は必要経費や労力も少なく早期管理作業による単収アップも見込めます。欠株の補植や株揃機、株出管理機などの普及で増産プロジェクトにも掲げてあります「株出面積」の2割増に向けて弾みがつきました。

春植面積は、各町糖業部会を中心で目標面積を設定し、種苗の助成や採苗応援など実施しましたが、株出面積の伸びや終盤の気象条件にも左右され、昨年比の九七%、七四七ヘクでした。(昨年比、徳之島町一〇六%、天城町九一%、伊仙町一〇一%)

夏植面積は、徳之島町の大幅な伸びもあり、昨年比の一〇八%、七四〇ヘクでした(昨年比、徳之島町一二二一%、天城町九一%、伊仙町一〇一%)。



徳之島の二工場を維持できるよう行政も具体案を示して全般的にバックアップしています。当社も大幅なコストダウンに向けて取組んでいます。農家の皆様もそれぞれのレベルで自分に見合った単収のアップに取り組み「儲かるさとうきび農業」を目指していきましょう。



きりこの全景



きりこの
調田機



新奨励品種 KY96-189

現在、各業務事務所(旧原料事務所)に三台導入し、希望者に貸し出しています。

詳しくは各業務事務所(旧原料事務所)に連絡してください。

詳しくは各業務事務所(旧原料事務所)に連絡してください。

断の労力が楽になり調苗時間が短くなつた。“思った以上に芽の確保が出来ている”などと喜びの声が寄せられています。

のご紹介